

かま自立相談支援センターに関する事業報告

1. 総括

かま自立相談支援センター（以下「センター」という。）は、経済的な困窮だけではなく、生活上の様々な困りごとの相談を幅広く受け止め、包括的な支援につなげていくことと、その支援をつうじた地域づくり（制度の隙間に置かれる方々をうまない）を進めていくという、大きな役割を担い、生活困窮者自立支援法が施行された平成 27 年 4 月 1 日に事業がスタート（嘉麻市からの委託）いたしました。

この事業は、生活保護受給者以外の生活困窮者を支援する「第 2 のセーフティーネット」という位置づけですが、相談を受ける中で、生活保護につなぐ必要がある場合にはきちんとつなぎ、生活保護の肩代わりにならないようにすることを基本に置きました。

事業がスタートした数日間は、全戸配布した案内チラシ、その中に記載した「電話での相談は 24 時間 365 日対応」という記事の効果もあって、来所、電話だけではなく、携帯電話に入る夜間の相談等も数多くありました。

年間をつうじて、生活困窮にかかわる相談は 174 件で、その内容も複雑・多様化し、単独機関のかかわりや制度・サービスの紹介、提供だけでは対応できない、まさに包括的な支援を必要とする状況が浮き彫りになりました。また、家計の収支バランスが崩れた状態にある方も数多くおられるため、家計の見える化をつうじた生活の立て直しが必要であることを実感しました。そのため、次年度に向けて、家計相談支援事業の実施を行政に要望し、家計相談支援員の配置が決まりました。相談内容（困りごと）の延べ件数は 380 件で、平均すると相談者一人が 2.2 件の困りごとを抱えているという結果となりました。その上位は、収入や生活費、仕事探しや就職、病気や健康、住まいに関する事など続き、食べるものがない、債務、ひきこもりや不登校に関するものなどもありました。

そのため、センターでは、抱える困りごとをじっくり聞いて、その上で、なにが問題なのかを整理し、解決に向かって一緒に考え、歩んでいくという「寄り添い型」の支援に努めました。その結果、1,383 件に及ぶ相談対応、支援に至りました。

また、相談を受ける中で、「市営住宅の入居申し込みに必要な連帯保証人が立てられない」「滞納等があるため、民間アパートの入居審査がパスできない」「両親も兄弟姉妹もおらず、親戚とも疎遠なため、自分が病気をしたり、死亡したときのことが心配」など、今後、何らかの対応を必要とする課題も見えてきていますので、地域づくりにつなげていくためにも、次年度に向けて、協議、検討していければと考えています。

センターでは、相談を受けると一定期間の中で課題や問題を整理（スクリーニング）し、方向性を定めていますが、今年度相談を受けた 174 件の内、プランを策定し継続して支援すると判断したのは 12 件でした。これについては、支援調整会議に諮りながら、再プランの策定も含めて、延べ 22 件のプランを策定いたしました。

就労支援については、ハローワークやフリーペーパーの求人情報、就労継続支援事業所の情報を延べ 100 回提供し、一般就労につながったのが 8 件、増収となったのが 1 件、福祉的就労につながったのが 2 件でした。現状においては、職業安定法に規定される職業紹介の許可を得ていないために情報の提供しかできず、相談者に応じた就労先につなげていくことの難しさと限界を感じました。次年度に向けては、雇用関係の成立を斡旋したり求職開拓ができるよう、無料職業紹介所の許可を得たいと考えています。

また、更生保護に関する相談に対応したことで、あらためて本会の組織目標である「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりの実現」という「誰もが」について考えることとなったほか、司法と福祉の連携の必要性を感じたため、はじめて、更生保護に関する事柄をテーマに研修会を開催し、79 人が参加しました。

生活福祉資金貸付事業については、今年度からセンターの所掌事項として取り組みました。新規相談は 155 件（前年比 56 件増）で、その内貸付に至ったのが 70 件（前年比 47 件増）でした。貸付の資金種類では、緊急小口資金が 39 件（前年比 25 件増）と大幅に増え、その用途を見ると、生活保護までのつなぎとして貸し付けたのが最も多く、25 件（前年比 21 件増）でした。年間の貸付総額は 18,441,000 円（前年比 12,493,000 円増）と大幅に増えました。また、今年度は、滞納状態にある借受人等に対して、センターの存在を知らせて相談につなげるため、5 月、8 月、11 月、2 月に払込票とともにセンターの案内チラシを郵送したり、民生委員の償還指導に際して届けてもらうようにしたことで、借受人等から生活状況についての連絡が入るようになりました。

フードバンク事業については、生活困窮者を支援するためには必要な事業ということで、年度当初から準備をはじめました。最初は、市内・市外の食品企業やスーパー等に食品の提供を呼びかけましたが、協力を得られなかったため、行政職員と本会職員への呼びかけに切り替えて、平成 27 年 7 月から軌道に乗ることができました。最終的には、市内の社会福祉法人や職員からも協力を得られるようになり、延べ 82 件の協力がありました。食品を必要としたのは 36 人で、延べ 69 回届けました。また、炊飯器も 4 件貸し出しました。

2. 事業実績

(1) 相談受け付け等に関する事

相談件数 2,075 件（来所 505 件 訪問 349 件 電話 1,210 件 メール 11 件）

①初回相談

件数 174 件（来所 64 件 電話 54 件 転送電話 16 件 メール 1 件 関係機関等から 39 件）

②年 齢

人数 174 人（20 歳以下 2 人 21 歳～30 歳 16 人 31 歳～40 歳 28 人 41 歳～50 歳 26 人 51 歳～60 歳 24 人 61 歳～70 歳 27 人 71 歳～80 歳 15 人 81 歳～90 歳 9 人 91 歳以上 3 人 不明 24 人）

③性 別

人数 174 人（男性 79 人 女性 95 人）

④相談内容（複数）

相談内容延べ件数 380 件（収入や生活費 102 件 仕事探しや就職 61 件 病気や健康、障がい 30 件、住まい 29 件、税金や公共料金 29 件 家賃やローン 25 件 その他 104 件）

※その他に関する内訳（詳細内訳）

その他の件数 104 件（食べるものがない 18 件 債務 16 件 家族関係や人間関係 13 件 子育てや介護 9 件 ひきこもりや不登校 9 件 地域との関係 4 件 仕事上のトラブル 3 件 その他 32 件）

⑤スクリーニング結果

スクリーニング件数 174 件

(情報提供や相談のみで終了 37 件 他の制度や専門機関につなぐ 49 件 引き続き支援を継続する 75 件 プランを策定し継続支援する 12 件 支援途中で中断・終了 1 件)

※他の制度や専門機関につないだ内訳(詳細内訳 複数)

件数 61 件 (コミュニティワークセンター4 件 ひきこもり相談支援センター2 件 保護課 17 件 高齢者介護課 1 件 健康課 1 件 住宅課 1 件 社会福祉課 1 件 ハローワーク 3 件 若者サポートステーション 1 件 障がい者相談支援センター1 件 シルバー人材センター2 件 70 歳現役応援センター1 件 居宅介護支援事業所 1 件 法曹関係 2 件 金融機関 1 件 医療機関 1 件 他市自立相談支援センター1 件 生活福祉資金貸付制度 20 件)

⑥自立に向けた働きかけ

継続相談・支援回数 1,383 件 (電話 815 件 転送電話 26 件 来所 262 件 訪問 212 件 時間外訪問 29 件 同行 30 件 メール 9 件)

⑦支援プランの策定状況

プラン策定件数 22 件 (新規プラン 12 件 再プラン 7 件 終了 3 件)

(2) 支援調整会議に関すること

①支援調整会議の開催

- 第 1 回 開催年月日 平成 27 年 6 月 3 日 (水) 出席者数/7 人 協議内容/・支援調整会議について・新規プラン案の検討 (1 件)
出席関係機関・団体/保護課 ハローワーク 若者サポートステーション 本会コミュニティワークセンター 自立相談支援センター
- 第 2 回 開催年月日 平成 27 年 8 月 13 日 (木) 出席者数/6 人 協議内容/・再プラン案の検討 (1 件)・相談実績報告 (4 月～7 月)
出席関係機関・団体/保護課 ハローワーク 本会コミュニティワークセンター 自立相談支援センター
- 第 3 回 開催年月日 平成 27 年 10 月 16 日 (金) 出席者数/6 人 協議内容/・新規プラン案の検討 (5 件)・再プラン案の検討 (1 件)
出席関係機関・団体/保護課 ハローワーク 健康課 本会コミュニティワークセンター 自立相談支援センター
- 第 4 回 開催年月日 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 出席者数/7 人 協議内容/・新規プラン案の検討 (3 件)
出席関係機関・団体/保護課 障がい者・就業支援センターBASARA ハローワーク 障がい者相談支援センター
本会コミュニティワークセンター 自立相談支援センター
- 第 5 回 開催年月日 平成 28 年 1 月 28 日 (木) 出席者数/5 人 協議内容/・再プラン案の検討 (4 件)・新規プラン案の検討 (1 件)
出席関係機関・団体/保護課 障がい者相談支援センター 本会コミュニティワークセンター 自立相談支援センター
- 第 6 回 開催年月日 平成 28 年 2 月 25 日 (木) 出席者数/4 人 協議内容/・再プラン案の検討 (1 件)・新規プラン案の検討 (1 件)
出席関係機関・団体/保護課 ハローワーク 自立相談支援センター
- 第 7 回 開催年月日 平成 28 年 3 月 24 日 (木) 出席者数/5 人 協議内容/・再プラン案の検討 (3 件)・新規プラン案の検討 (1 件)
出席関係機関・団体/保護課 ハローワーク 本会コミュニティワークセンター 自立相談支援センター

(3) 就労支援に関すること

①支援状況

- ・情報提供 100 回
- ・就労等につながった件数 11 件
 - 【一般就労 8 件 (稲築カントリークラブ 田川市役所 トヨタ自動車九州(株)宮若工場 本会配食サービス 第一交通産業グループ ㈱戸田工業 ㈱リードワン (有)プラスチック)】
 - 【福祉的就労 2 件 (就労継続 A 型事業所ありがとう 特別養護老人ホーム第二稲穂園)】
 - 【増収 1 件 (専門学校)】

(4) 啓発等の取り組みに関すること

- ・かま自立相談支援センターの開設を知らせる啓発チラシを作成し、全戸に配布した。平成 27 年 4 月 1 日 (水)
- ・社協だよりえがお No.110 (4 月 1 日発行) 及び No.116 (10 月 1 日発行) で、かま自立相談支援センターの事業内容等を掲載し、啓発に努めた。
- ・かま自立相談支援センターを啓発するため、案内パンフレットを作成した。(フルカラーで 1,000 部印刷)

(5) 地域づくりに向けた取り組みに関すること

①福祉のまちづくり研修会の開催

開催年月日・時間 平成 28 年 2 月 29 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 20 分 参加者数 79 人 会場/夢サイトかほ 文化ホール
テーマ「刑務所を出所した方が、地域の一員として生活していけるように…」～深めよう 司法と福祉の連携～
講演①講師 福岡刑務所 分類審議室 福祉専門官 中川 典子さん
講演②講師 法務省 福岡保護観察所 飯塚駐在官事務所 上席保護観察官 北川 皇史さん

(6) センター機能の充実に関すること

- ①備品等の整備 ノートパソコン 4 台 (東芝 PT45NW 3 台、東芝 PT55UWP-BWA 1 台) プリンター 1 台 (エプソン PX-M5041F)
脇机 2 台 (ジョイントテックス GT-47) レターケース 2 台 (アロジジャー A4 PT-220) 精米機 1 台 (マルマス エアクリン) 保冷庫 1 台 (KAW14J)
整理棚 2 台 (ホルトスラックス、オープン収納庫 FO-G11) 炊飯器 3 台 (タイガー JBH-G10)

(7) 生活福祉貸付事業に関すること

①相談・貸付等の状況

・相談件数 518 件（新規相談 155 件 継続相談 363 件） 貸付件数 70 件 貸付総額 18,441,000 円

・貸付資金種類 総合支援資金（生活支援費 2 件 795,000 円）

福祉資金（福祉費 7 件 5,011,000 円 緊急小口資金 32 件 1,851,000 円）

※緊急小口資金使途内訳（詳細内訳 再掲）

生活保護受給までのつなぎ 25 件 1,175,000 円 初任給までのつなぎ 5 件 500,000 円 一時的な収入減 1 件 100,000 円

一時的な支出増（医療費支払い） 1 件 76,000 円

教育支援資金（教育支援費 13 件 6,368,000 円 就学支度費 16 件 4,416,000 円）

②滞納世帯への働きかけ

・滞納状態にある借受人等に対し、センターの存在を知らせて相談につなげるため、5 月、8 月、11 月、2 月に払込票とともにセンターの案内チラシを郵送するとともに、民生委員の償還指導に際しても届けてもらうようにした。

(8) フードバンク事業に関すること、

①事業の啓発

・フードバンク事業立ち上げに伴う食品提供に関する趣意書を作成し、平成 27 年 7 月 10 日（金）～平成 27 年 7 月 27 日（月）の中で、スーパーASO 稲築店、スーパーASO 大隈店、トレードマート稲築店、フレッシュ 8 稲築店、スーパー川食碓井店、スーパー川食山田店、道の駅うすい、カッホー馬古屏屏、スーパーおおさと、古処味噌醸造元原田食品(株)、太平食品工業(株)九州工場、一番食品(株)、嘉麻市商工会に協力を呼びかけたが、まったく協力を得られなかったため、行政職員、本会職員への協力を切り替えて呼びかけた。

・備蓄の残量が少なくなって、事業の実施に支障が出そうになったため、食品提供に関するチラシを作成し、嘉麻市行政職員、本会職員、また、市内の社会福祉法人にも協力を呼びかけた。平成 28 年 1 月 28 日（木）から随時

②実施状況

・食品提供の協力件数 82 件

【嘉麻市役所（総務課 1 件 人事課 4 件 保護課 2 件 防災対策課 1 件）障がい者生活支援センター誠心園 4 件

軽費老人ホーム稲穂園 1 件 特別養護老人ホーム第二稲穂園 1 件 介護老人保健施設シルバーケア嘉穂 2 件

障がい者支援施設清浄学園 3 件 特別養護老人ホームひまわり園 1 件 九州電力(株) 1 件 嘉麻市役所職員（6 人）9 件

本会職員（27 人）50 件 センター利用者（2 人）2 件】

・食品を必要とした人数 36 人 ・食品を届けた延べ回数 69 回 ・炊飯器貸出件数 4 件

③届けた食品の総数

米 261.5 kg おかずになる食品 264 食 主食レトルト 58 食 味噌汁等 363 食 カップラーメン・袋ラーメン 156 食 調味料 39 点

そうめん等 24 箱 飲料水 61 点

④食品及び物品在庫一覧（平成 28 年 3 月 31 日現在）

白米 25kg カップめん 293 個 袋めん 22 袋 そうめん 12 箱 そうめん 8 袋 うどん・そば 1 箱 うどん 3 袋 味のり 4 本 味のり 2 箱

味のり 12 袋 手巻き海苔 1 袋 のり佃煮 1 ビン なめ茸 1 ビン レトルト食品 8 箱 レトルトカレー 6 袋 ムール貝油漬 1 箱

ふりかけ 2 お茶漬 3 箱 十六種雑穀（ひじき入り） 1 箱 魚缶詰 4 缶 ツナ缶 3 缶 カニ缶 2 缶 ランチョンミート缶 1 缶

コーン缶 1 缶 赤貝缶 3 缶 おかず缶詰 5 缶 吸い物 21 袋 味噌汁 61 袋 レトルトスープ 5 袋 コーンスープ等 3 箱 砂糖 6 袋

しょうゆ 1 本 めんつゆ 7 本 だしパック 3 袋 トマトケチャップ 2 本 調理用ソース 3 箱 カレールウ 1 箱 はちみつ 1 ビン

マーマレード 1 ビン ドリップコーヒー 10 袋入り 1 袋 しょうが湯 2 袋 ポケットティッシュ 3 個 石鹸 9 個 タオル 2 枚

ボディシャンプー 2 本 シャンプー等 4 袋 炊飯器 4 台

(9) その他に関すること

①視察の受け入れ

・かま自立相談支援センターの取組みについて学ぶため、豊前市社会福祉協議会（職員 2 名）が視察に訪れた。平成 28 年 1 月 22 日（金）

・かま自立相談支援センターの取組みについて学ぶため、春日市社会福祉協議会（職員 3 名）が視察に訪れた。平成 28 年 2 月 15 日（月）